オラリオそれは我が糧である

エア運送

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

神々が顕現し繁栄する町オラリオ
その恩恵に肖り信棒する冒険者達
高みから町を見下ろすのもいいが深淵から覗く景色も一興だろう
迷い込んだ脆弱な青白い魂が齎すのは喜劇か悲劇のバラッドか
…さてご覧あれ

目次

第一話目覚め ―――― 1
第二話追悼の意を捧ぐ ―――― 5

第一話目覚め

…

……

目が覚めたと言っていいのだろうか、始めに思ったのは体が動かないという事だ。

ここはどこだ、拉致、誘拐かとも思ったが、何より感じた違和感はその一言に尽きる。

私の視界からは体を確認する手も、顔にかかる髪の毛も見えず、自分の鼻先さえも見えない。

瞬きさえも出来ないのだ

勿論声を上げることなど皆無

身に覚えのない理不尽な、この拘束から困惑すること少し部屋の中を視線だけで見渡し確認する。

下は砂地と言うより石地と言えるだろう、ゴツゴツして堅そうだ、そして正方形ともいえる岩壁に囲まれたような状況で他には何もない。

私はしばし呆然とした

そしてもう一つなにも思い出せないという事に愕然とした。

何をしていたかとか、そういう事は当たり前、私が誰であったかも思い出せない、名前すらもだ。

何かの実験の非検体にでも利用されたかとも思ったが状況が状況だけに何一つ出来ることもない。

見ることができる前方を確認しただけだが閉鎖された空間に隔離するにしても可笑し過ぎることに苦笑を漏らすところだ。笑えないが

他に考えられるのは異世界転移等だがどうなのだろうか、何かに召喚されたとしても何も見当たらないのだ。

ステータスとか出てくれればなと考えた時だった

視線の前にブーンとアニメで見る立体ホログラムみたいなコンソールが空中に立ち上がった。

ｎａｍｅ【　　】

ｓｔａｇｅｌｅｖｅｌｌ　（ｎｅｘｔ０／２）

１０ｐｔ（１／ｍ）

ＳＴＲｌ

ＶＩＴｌ

ＤＥＸｌ

ＡＧＩｌ
ＩＮＴｌ
ａｂｉｌｉｔｙ　ｎｏｎｅ
ｍｅｎｕ
…驚かされるが私はどこぞのＲＰＧの初心冒険者にでもなってしまったらしい。これは端的に私の事を表しているのではないか
名前はないらしい、悲しい事だ…思いつかないので飛ばすことにする。
ｓｔａｇｅｌｅｖｅｌｌ（ｎｅｘｔ０／２）とは経験値なのだろうか、数字の意味するところ何かするようだ。
ｌ０ｐｔ（ｌ／ｍ）とは何か１分毎のポイントが貯まっていってるのだろう
ＳＴＲ、ＶＩＴ等はステータスそのままだ
ａｂｉｌｉｔｙはないらしい、まぁそうだな一塊の人間が空を飛べるだとか、手から炎、心を読めるだとかあるはずもない。
最後のｍｅｎｕに意識した時だったずらーっと羅列が伸びた。
召喚、合成、能力付与、増設、建設、アイテム構築、階層。
召喚されるモンスター名、アビリティーツリー、アイテム名等、様々な文字羅列が視界の範囲を覆っていく。まだまだ伸びるようだ

ストップストップ、とまれっと焦りながらも意識して漸くピタッと止まる。
際限の効かないＰＣのようで使い勝手に困りながらも閉じることを念じると一面の視界が確保できた。
再度コンソールを出し冒頭に乗っかっていた召喚をこの見える範囲でだけと出してみる。
モンスター名の横にｐｔがついてある。
これはそういう事なのだろうと確かめる意味で私は徐に意識し召喚することにした。
モンスター名【　　】１０ｐｔ
召喚しますか？
Ｙｅｓ　Ｎｏ
Ｙｅｓに意識を向けると目の前の床に六芒星を模したものを基調にした、邪神でも召喚されるんじゃないかという複雑な模様をなぞりながら赤い光が発光し煙が充満していく。
光が収まり煙の中からシルエットが浮かび上がってきた。
未だ勝手がわからず至らぬ身ではあるがこれから共にする仲間に心が踊る
よろしくな、我が召喚せし相棒よ。

第二話追悼の意を捧ぐ

残念ながら召喚した相棒は死んでしまいました。
目の前には干からびた透明な膜のようなものの残骸がある。
まてっ、言い訳をさせてもらおう
そう、あれは…
……
…
赤光した召喚陣からはぷるぷるした物体ｘ、スライム君が現れた
うん、可愛いや
このすべてを魅了する独特なフォルム、色は透明がかった緑、皆の愛する不定形型モンスター、スライムである。
こっちに来いと念じるとぷるぷるっと震えながら地べたを這いずり、のそーりのそーりとこちらにやって来た
掴む手、撫でる手がないのが悲しいがそばに寄って来るのが実に微笑ましい。
直下で止まると、どうしたのーといわんばかりにうねうねと手を伸ばす様に形を変え

る様はこちらに呼びかけているようだ。
特に意識疎通出来るのか確かめたかっただけで用はないので、楽にしていいと念じこれからどうしようかと考察に入る。スライムは理解したのか一度だけぽよんと跳ねた
何にしてもポイントが必要だなと、ピンは１０ｐｔ～キリまで数万ｐｔと色々雑多にあるコンソールのスクロールを適当に流し見しつつ玉に愛玩スライムを見て考える
ｓｔａｇｅｌｅｖｅｌｌ（ｎｅｘｔｌ／２）
とステータスを見直した時に気付いた
…これはスライムを召喚したからか
ならもう一度召喚すれば２／２になりｌｅｖｅｌがあがるのでは…
ポイントは１５ｐｔ…今すぐ再度の召喚もできるが私の関心は別の所にあった。
目が覚めてこの数分、訳も分からず極度のパニックに緊張状態を強いられ精神的に疲れた。少しでもいいから休みたい。お休みモードないのかなとコンソールを探してみる
この目がずっと開いた状態、渇きはしないし痛みも感じないが、心を休め何も考えない時間が欲しい。その思いでスリープモードというのを見つけた
数字のスクロールバーのようなものが出る、相棒が居るから仮眠で数時間がいいかなと思い３を設定し意識する

私の意識が遠のいていく。スライム君少しの間だけどおやすみなさい
またあとでね
…
……
という訳である。
目が覚めて起きたら我が相棒が死んでいた、何という事だろう。おージーザス
たかが３時間程度で死んでしまうほど脆弱だとは夢にも思わなかった。だが一旦気分を切り替え覚醒した私は気分もそうだが今ある状況を把握し打開するために落ち込んでいる暇はないのだ
許せスライム、君の尊い犠牲は無駄にしない。現状打破のために進むことにしステータスを立ち上げ固まった。口がもしあればさぞみっともなく開いていたことだろう
ｓｔａｇｅｌｅｖｅｌ２（ｎｅｘｔｌ／４）
３，１４５，８６４ｐ（２／ｍ）
と目に入った。
何事だ何が起こったんだ身の上に起こったことを考えてみる。
一日１４４０ｐｔが２倍になって２８８０ｐｔ割ってみると１０５０程度か…確か設定したのは３…それが意味するのは…

時間じゃなくて年数かよ、せめて日数だろ。それは想定外だっ
私はどうやら3年もの間お休みしてしまったらしい、そりゃスライム君もご臨終するわ納得。自分も一緒に躯にならないだけ良かったかもしれない
遺骸を見てみるともうカラカラのパリンパリンだもんね見るだけしかできないけど
気持ちを改め莫大なポイントをげっちゅした私は適当にポイントを消費する作業に入った
フロア増設1部屋増やすごとに１０００ｐｔ適当に１０部屋1万ｐｔ
階層、増やすごとに１０００ずつ上がっていくこと１０層４万５千ｐｔ
自分のステータス、１ｐｔあげるごとに現状の値が必要になってくること全部１００まで上げていく。動けないので意味がないが身を守るためにはしょうがない。何事もいざというときのための備えは大切だ。約2万5千ｐｔ
適当に片っ端から召喚されるモンスター
かのスライム
定番のゴブリン
コボルト
スケルトン
ミノタウロス

ゾンビ
レイス
オーク
ドラゴン、サキュバス、インプ、ウルフ系列、ラミア、パピー
階層をまるまる水質エリアにしてマーマン、テンタクルス、セイレーン
思うがままに次々と生み出される新たな世界
途中部屋の狭さに召喚されたモンスターが圧迫される事態などがあったが、拡張して事なきを得た。あの時はほんと焦った。
階層やフロアを仕切りにした色々な世界
湿地エリア、火山、海岸、森林、草原、岩山様々
改築には植林や肉食の餌用に必要なリポップされるものも含まれ、それぞれに応じた環境を整えていく
ｓｔａｇｅｌｅｖｅｌ３（ｎｅｘｔ２／８）
２，３０４，７６５ｐ（３／ｍ）
毎増量ポイントはレベルに比例、レベル経験値の基準は隠れミッション的なものみたいだ。システムでの新たな試みを試す度に上がっているのか
今度は能力付与とアイテム欄を重点的に見ていこう

モンスターは意思疎通が思念を読んでくれるように動くがやはり言葉で便宜を図れるようにはしたい

とりあえずホログラム越しに見える階層やフロアを覗き適当にモンスター毎に能力を付けていく。自分にもだ

あっ、そうそう自分の姿をホログラムに写したら水色の真ん丸い水晶球だった。これにはびっくり。どうりで動けないはずだと

どうしようもできない事を気にしても埒が明かないので作業を進める

指揮、武具系スキル、狩猟系スキル、建築、農耕、採取、拵闘、手芸なんてものもある

毒系の耐性や魔法の一覧名等多岐にわたる中、お目当てのを見つけた。

テレパシーと翻訳だ。自分に付与しステータスをみてみる

ｎａｍｅ【　　】

ｓｔａｇｅｌｅｖｅｌ３　（ｎｅｘｔ４／８）

１，２１４，２６５ｐｔ（３／ｍ）

ＳＴＲ１００

ＶＩＴ１００

ＤＥＸ１００

ＡＧＩ１００
ＩＮＴ１００
ａｂｉｌｉｔｙ　【テレパシー】【翻訳】【鑑定】【状態異常無効】【物理耐性Ｖ】【魔法耐性Ｖ】【浮遊】【魔力操作】【サイコキネシス】【アイテムボックス】【転移】

他にも気になるスキルは沢山あるがポイントが心もとなくなってきた。さて、これで動く水晶玉の完成だ。いささか圧迫死しそうになった不安があるのでステータスの値も上げておく。直にフロアを見回ってみよう。直接見るのは何事も大事だ、現場の意見大切に！

各フロア階層を見て回り配下モンスターに打診していく。おおむね良好で指した問題もなくちょっと水場が足りないと言えば出してやり、訓練をしたいからと武具を出し、怪我をするかもしれないと思案すればポーションを置いていく。住居を立てたいと言えば木材になるようなものを植林するか整地セットなるアイテムを召喚する、大工道具も一緒だ。

段々とこのダンジョンというものの形が成っていく中でふと思った

外はどうなっているのだろうと…

先ほど見たｍｅｎｕの中でｏｐｅｎという表記が気にかかる

このダンジョン以上の難がある危険性を孕む未知が待ち受けようとも私ははやる心

と興味を押えることができなかった

ダンジョンをｏｐｅｎしますか？

Ｙｅｓ　Ｎｏ

そっとボタンに触れた